

大学生の考える「豊かな生活」と生活満足

—生活経営的な視点から—

The well life and life satisfaction the university students think:
From a Viewpoint of Family Resource Management

保育科 平野 順子
Junko HIRANO

1. 問題の所在と本研究の目的

(1) 若者と豊かな暮らし

わが国において「物質的に豊かになった」と認識されるようになって久しい。「平成29年度 国民生活に関する世論調査」(内閣府)では、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」とする考えと「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」とする考えでは、前者が62.6%、後者が29.2%となっている。性別に見ると、男性よりも女性の方が、また年齢を重ねるにつれて、心の豊かさを求める傾向が強いことが分かっている。この調査では、1979年以降、徐々に、心の豊かさを求める人の割合が高くなって来ている。つまり、「豊かさ」というと、物質的な豊かさを前提として、さらに精神的豊かさが求められている時代であるということだ。

この調査でも見られたように、若年層では、物質的な豊かさを感じにくく、そのために精神的な豊かさを求めるに至らない傾向にある。その一方で、物質的に豊かな「消費の時代」とは言え、若者は消費しなくなったという指摘も多々ある。その消費離れの背景には、若者の貧困化が進んだことが挙げられる。そして、児美川(2013)では、それだけではなく、若者の将来への展望が失われているため、消費ではなく「貯蓄」に回っていることを指摘する。また、若者はSNSを中心としてコンサマトリー(「今、ここ」)なライフスタイルへの志向性が高いが、それと消費が結びつかず、自分自身の内面と仲間うちでの承認が得られれば満足を感じるようになったと指摘している。これらを考え合わせると、消費しなくなり、物質的に満たされていると感じにくい、あるいは自分の求めるものだけを満足が得られるまで消費をしたいが、貧困化や貯蓄に回るなどのために、自分が望む消費ができず、物質的に豊かさを感じにくいということであろう。

とりわけ若者の間では、「豊かな生活」は実現されているのだろうか。同じ内閣府の調査では、生活全般にどのくらい満足しているかについても尋ねている。ここでは、18～29歳の「満足している」「まあ満足している」と回答した人の割合は79.5%にのぼり、年齢階級別に見ると、他のどの年齢層よりも満足している者が多い。

(2) 豊かさと家政学、生活経営

ところで、この「豊かさ」を追求する生き方は、家政学の目的に通じるものである。家政学は、「家庭生活を中心とした人間生活における人間と環境の相互作用について、人的・物的両面から、自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し、生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。」(『家政学将来構想』、1984)と定義づけられている。家政学を基盤とした学問を研究する者として、「豊かさ」、ひいては「生活の向上」について考えることは、欠かすことはできない。現代の日本では、かつてのように物質的に満たされずに、不足している物質をいかに分配しながら生活の向上を図るかといった問題では

ない。社会制度や価値観などが大きく変化する中で、自己の価値観をどのように持ち、どのように生活を営むかという問題を提起し、解決していくことが、生活の向上につながるのである。

その家政学の一分野である生活経営は、個人や家族という単位の視座からマネジメントしていくという方法論である（折笠、2016）。生活者としての善き生き方を考え、個人の生活満足と社会への貢献を両立することの重要性を説きつつ、そのために必要な考え方を整理することである（豊田、2012）。人は皆、個人の満足を求め、よりよい生活をしようと努めている。その際に考える枠組みとして、企業経営の考えも一部取り入れながら、生活をマネジメントするということである。この視点を持って、豊かな暮らしや生活満足を追求することは、重要なことである。

（3）本研究の目的

若者が望む「豊かな暮らし」について考えるには、生活経営的な視点が欠かせない。そこで、本研究では、実際に若者はどのような生活を「豊かな暮らし」だと認識しており、またそのような生活に満足しているのか、満足している点と満足していない点を概観し、そこで現れる問題点を、生活経営的にどのように整理し、今後の生活改善につなげていけるかを考えることを目的とする。また、本研究では、若者として本学の学生を研究対象とする。そこから、本学の学生に対して、どのように生活経営的視点を持って生活を考えさせるかについても考えたい。

2. 方法

（1）対象

平成29年度前期に開講されていた、筆者が担当する「家政学原論」の授業2クラスを受講していた2～4年生のうち、授業前課題として、本テーマに関連する質問にコメントを寄せた学生の回答を分析対象とする。なお、これらの課題は、本来ならば評価対象として扱われるものであると考えられる。そのため、受講生には授業終了後に研究対象として扱うことと個人情報の保護について説明し、その際に、分析対象とすることを了承した学生のコメントのみ分析している。2クラスの受講者数の合計は186名であり、そのうち分析対象となったのは168名であった。学年の内訳は、2年生が142名（84.5%）、3年生が14名（8.3%）、4年生が12名（7.1%）であった。

（2）設問内容

第2回授業と第13回授業の授業前課題として設定した設問に対する回答を分析対象とする。今回分析する授業前課題は、以下の通りである。

①家政学は「豊かな暮らしを作り出す」ことを、大きな目的のひとつにしていると考えられます。そこで、あなたの思う「豊かな暮らし」とは、どんな暮らしだと考えますか？ 例えば、家族・経済面・時間面・労働面・人間関係面・利便性・社会面など、多岐に渡って考えてみてください。（自由記述：第2回授業前課題）

②あなたはこれからの生活で、心の豊かさを求めたいですか、物の豊かさを求めたいですか。（回答選択肢は、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」と「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」の2択：第13回授業前課題）

③あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。（回答選択肢は、「満足している」、「まあ満足している」、「どちらともいえない」、「やや不満である」、「不満である」の5択：第13回授業前課題）

④あなたはどのような点で、現在の生活に満足していますか。（自由記述：第13回授業前課題）

⑤あなたはどのような点で、現在の生活に不満がありますか。（自由記述：第13回授業前課題）

(3) 方法

e-kaseiを通して回答された上記の授業前課題について、択一式の回答については量的分析、自由記述の回答についてはKH Coder Ver. 2.00fを用いたテキストマイニングの手法を用い、設問ごとに頻出語の傾向分析と、共起ネットワーク（出現パターンの似通った共起の程度が強い語を線で結んだネットワーク）分析を行った。それによって、学生たちが考える豊かな暮らし、また生活満足のポジティブ要因とネガティブ要因について明らかにする。

(4) テキストマイニングのための前処理、複合語の検出及び語の取捨選択

まず、自由記述で回答を求めた、設問①「豊かな暮らし」とはどのような暮らしだと思うか、設問④現在の生活に満足している点、設問⑤現在の生活に不満な点、への回答について、分析対象として前処理を実行した。前処理なしに分析を行うと、たとえば「スマートフォン」という言葉が「スマート」と「フォン」というように2語に分けられて抽出されてしまうものがあるからである。そこで、KH Coderに同梱された茶筌（ChaSen）を利用して複合語の検出を行った。そこで抽出された語を2語以上に分けてではなく、1語として抽出して分析するように、「矯正抽出する語」として指定し、分析を行った。また、「アルバイト」と「バイト」と言ったように、同じ内容を指すが簡略化された言い方をしている語が存在していたため、これについては、分析前のExcelデータ上で統一化して置き換えを行った。

文書の単純集計の結果、①では503、④では341、⑤では326の文が確認された。総抽出語数（分析対象ファイルに含まれているすべての語の延べ数）は、①では6338、④では2599、⑤では1641であった。さらに、助詞や助動詞など、どのような文章にでもあらわれる一般的な語が除外され、分析に使用される語として、①で2775語（異なり語数685）、④で1096語（異なり語数357）、⑤で748語（異なり語数308）が抽出された。

3. 結果

(1) 「豊かな暮らし」とはどのような暮らしだと思うか

設問①への学生の自由記述より、頻出語を上位50位まで抜き出した結果が図表1である。「暮らし」や「豊か」、「生活」などと言った設問に含まれたり関連の深い語、「思う」と言った文尾によく使われる語が上位を占めているが、「家族」、「時間」、「余裕」、「人」、「お金」、「自分」と言った語も上位を占める。豊かな暮らしを作るためには、様々なファクターが必要だと認識しているということであろう。

また、図表1には、この自由記述より作成した共起ネットワーク（出現数8以上、描画数25）を示した。「豊か」や「暮らし」とは「家族」が強くつながっているが、一連のまとまりには「お金」「時間」「余裕」「経済的」といった語が連なっている。また、「経済面」だけでなく「人間関係」も、といった形で、経済的に裕福であれば豊かな暮らしとは言えないと考えられていることが、この図からも言えよう。

この設問に対する回答例には、次のようなものがある。「ひとことで言うと不自由のない生活だと思いま

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
暮らし	112	社会	13
豊か	89	趣味	13
思う	81	家庭	12
家族	79	環境	12
生活	58	幸せ	12
時間	41	程度	12
余裕	41	友人	12
人	39	良好	12
お金	37	笑顔	11
自分	37	生きる	11
経済的	31	必要	11
仕事	29	経済力	10
人間関係	26	言える	10
経済面	24	好き	10
困る	24	大切	10
健康	21	暮らす	10
衣食住	20	良い	10
考える	20	ある程度	9
心	19	出来る	9
持つ	17	働く	9
関係	15	金銭面	8
充実	15	不自由	8
友達	15	毎日	8
安定	14	面	8
食べる	14	労働面	8

図表1 「豊かな暮らし」とは 頻出語(上位50位)

(3) 生活全般への満足

引き続き、「あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。」と質問し、「満足している」～「不満である」の5段階評価をしてもらった。その結果は図表4の通りであった。「まあ満足している」と回答した者が半数近くと最も多数を占め、「満足している」と合わせると、満足グループは61.3%に上る。「やや不満である」と回答した者は5.4%であり、「不満である」と回答した者はいなかった。この設問もまた、内閣府「国民生活に関する世論調査」と全く同じ問いを学生たちに投げかけたものである。前問と同じく2017年の同調査での18～29歳の結果では、「満足している」が22.2%、「まあ満足している」が57.3%、「どちらともいえない」が0.9%、「やや不満である」が16.8%、「不満である」が2.6%であった。本学学生では、満足している者は多いが、どちらとも言えないと回答する者も多い傾向にあることが分かった。

	人数	%
満足している	24	14.3
まあ満足している	79	47.0
どちらともいえない	19	11.3
やや不満である	9	5.4
不満である	0	0.0
NA	37	22.0
合計	168	100.0

図表4 生活全般への満足感

(4) 現在の生活に満足している点

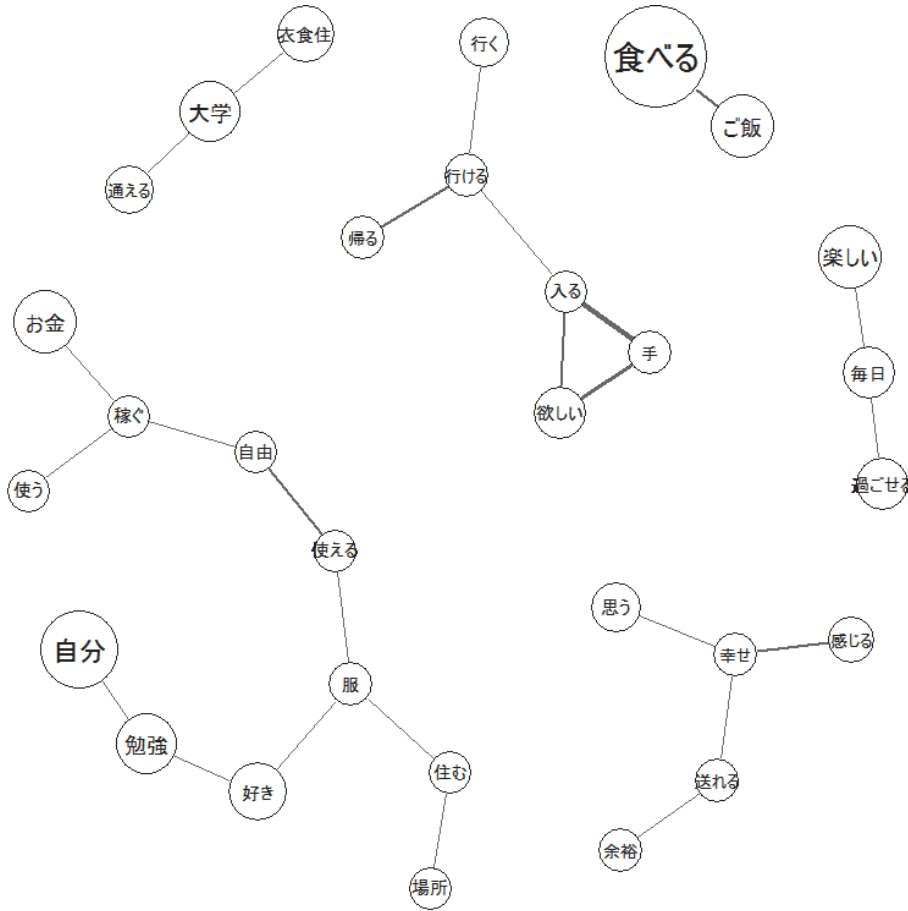
図表5には、どのような点で現在の生活に満足しているか、についての自由記述の頻出語（上位50位）を示している。特徴的な言葉としては、「食べる」「ご飯」「美味しい」などといった「食」に関する語、また「楽しい」「好き」「満足」「出来る」「恵まれる」「幸せ」「充実」などといった主観的に満たされていることを表した語、「家族」「お金」「友達」「アルバイト」「大学」「勉強」「時間」「衣食住」「学校」「家」「趣味」などといった、具体的に満たされている対象を示した語、が上位によく表れている。

図表6には、この設問に対する回答の共起ネットワーク（出現数4以上、描画数25）を示した。「ご飯」を「食べる」ことができるといった連なりや、「自分」の「好き」な「勉強」や「服」、「お金」を「稼いで」「自由に」「使える」といった連なり、「大学」に「通える」といった連なり、「毎日」「楽しく」「過ごせる」といった連なりなどが見て取れる。

この設問に対する典型的な回答には、「自分の学びたいことが学べ、サークルやアルバイトができ、家族も友人もいて、全体的にゆとりがあり楽しく過ごせている」、「好きな勉強をして、自分で稼いだお金で

	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
好きなものを友達と食べた	食べる	33	ある程度	8	充実	5
り、服を買ったりして、過	生活	28	家	8	送れる	5
ごしている」、「決してお金	自分	21	行く	8	買う	5
に豊かだったり心に余裕が	家族	19	思う	8	不自由	5
あるわけでもないけど健康	お金	14	出来る	8	普通	5
で楽しく毎日を送れている	ご飯	14	学ぶ	7	服	5
と思う」、「高校の頃に比べ	楽しい	14	人	7	余裕	5
て自分で使えるお金が増	困る	14	通える	7	家事	4
え、友だちと外食したり、	満足	14	美味しい	7	稼ぐ	4
好きな服を自由に買えるよ	友達	14	必要	7	過ごす	4
うになった」、「日々食べら	アルバイト	13	感じる	6	使う	4
れるものがあり困らない。	大学	13	環境	6	使える	4
誰かとともに食事ができ	勉強	13	恵まれる	6	自由	4
る」などが見られた。	好き	12	健康	6	住む	4
	時間	12	親	6	場所	4
	衣食住	11	帰る	5	食べ物	4
	学校	10	幸せ	5	食事	4
	過ごせる	9	行ける	5	入る	4
	毎日	9	手	5	毎日	4
	欲しい	9	趣味	5		

図表5 現在の生活に満足している点 頻出語(上位50位)



図表6 現在の生活に満足している点 共起ネットワーク

(5) 現在の生活に不満な点

図表7には、どのような点で現在の生活に不満があるか、についての自由記述の頻出語（上位50位）を示している。特徴的な言葉としては、「時間」「お金」「アルバイト」「課題」「家」「家族」「学校」「睡眠

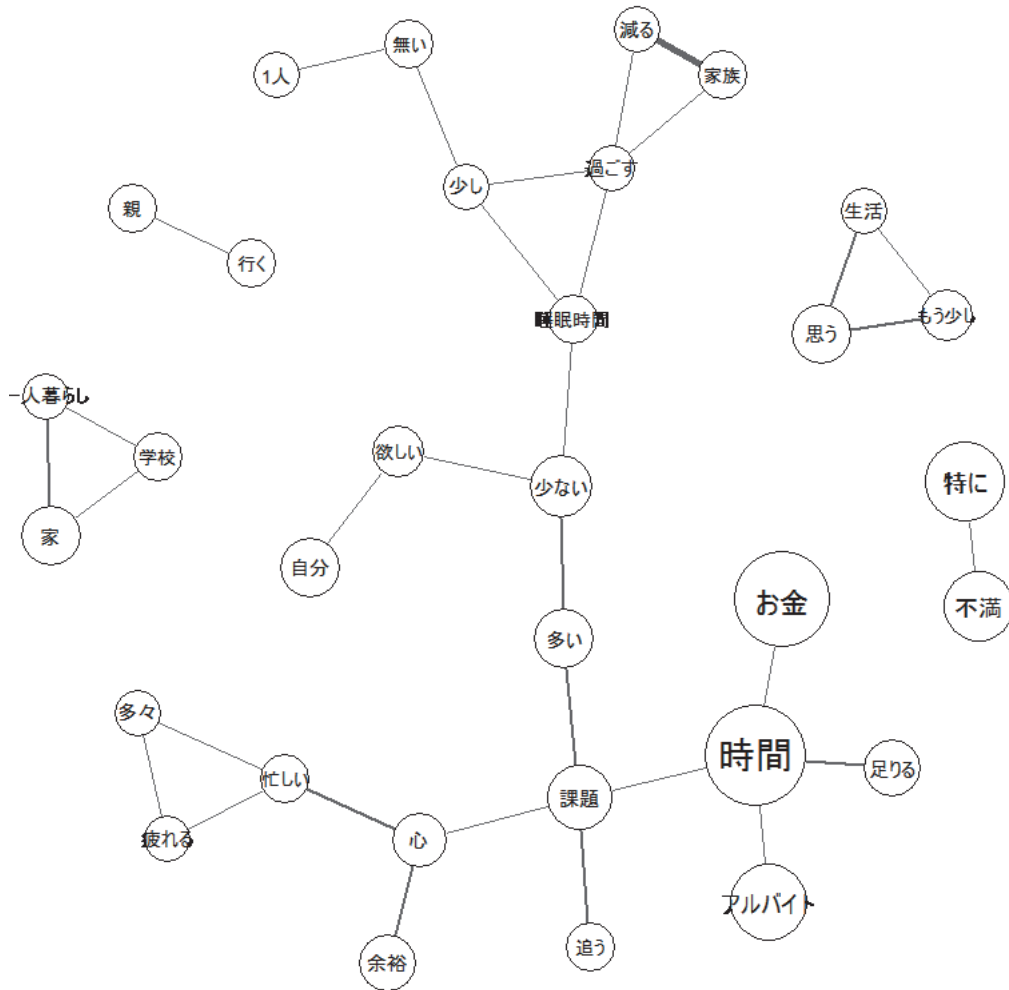
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
時間	23	無い	4	限る	2
お金	21	1人	3	高い	2
特に	15	一人暮らし	3	今	2
アルバイト	14	過ごす	3	困る	2
不満	12	減る	3	自立	2
課題	10	少し	3	手	2
少ない	9	情報	3	趣味	2
家	8	生活	3	授業	2
思う	8	多々	3	出かける	2
自分	8	疲れる	3	寝る	2
多い	8	ストレス	2	制限	2
足りる	7	テスト	2	大学生	2
余裕	7	遠い	2	難しい	2
心	6	音	2	入る	2
もう少し	5	家事	2	不安	2
欲しい	5	稼げる	2	服	2
家族	4	我慢	2	物	2
学校	4	帰る	2	豊か	2
行く	4	近い	2	毎日	2
親	4	金銭面	2	門限	2
睡眠時間	4	経済的	2	頼る	2
追う	4	見つける	2	両親	2
忙しい	4	言う	2	良い	2

図表7 現在の生活に不満な点 頻出語(上位50位)

「追われ」て「忙しい」「疲れる」「心」「余裕(ない)」と

いった連なりが見て取れる。また、この「時間」や「課題」などの「多い」「少ない」からは、「睡眠時間」「少し」といった語も連なっている。十分な時間やお金がなく、余裕がないという表れであろう。

この設問に対する典型的な回答には、「学校、アルバイト、課題等であまり自由な時間が少ない。自分の欲しい物に対してお金が足りない」、「課題が忙しくて心に余裕がない。余裕がなくて人に優しくできていないことに不満がある」、「人間関係に疲れる事が多く、合わせることばかりになってしまい、自分がなくなっていること」、「学校から家までが遠くないので、そろそろ自立して、一人暮らしを始めたいが、両親が許してくれない」、「少し家が遠いのと、他の家よりも門限ややっていいことの制限があること」、などが見られた。



図表8 現在の生活に不満な点 共起ネットワーク

4. 考察と今後に向けて

(1) 本学学生の考える「豊かな暮らし」と「生活」

本学の学生は、「豊かな暮らし」というものを幅広くとらえ、また現在の自分の生活を、それに基づいて、満足な生活だと認識している者が多かった。「豊か」というと経済面がクローズアップされることが多いが、本研究の結果では、経済面よりも時間、家族、人間関係など、幅広くとらえて「豊かな暮らし」と考えられていた。これは、この授業前課題を設定した「家政学原論」という授業の履修者であることも関連があろう。物質的な豊かさよりも心の豊かさを求めたいと答える者が多かったが、それが示す通り、経済的・物質的な豊かさは必要であるが、それ以上に、幅広く考え、自分の生活に満足している者が多かった。

(2) 生活経営的な視点から

自分の生活をどちらかという満足だと考えている者が多く、不満だと回答する者が皆無であったことや、満足である理由や不満である理由として挙げられた自由記述から、学生たちは、自分が置かれた現状について、客観的に考えて、満足度の高い生活だと認識していると言える。生活経営は、自らが持つあらゆる資源（人的、物的、時間的、経済的、環境など）を洗い出し、短期的のみならず中長期的視点に立って、自分の価値観に沿った暮らしと社会の持続可能性を担保する暮らしをどのように作り出すかを考える視点である。短期的に見ると、課題やテスト等に追われて忙しく、思うようにゆとりが持てないという不満点は何人も学生から上がっていた。しかしながら、客観的に考えてみると、自分の好きな勉強をして将来につなげるということ、好きなものを買ったり食べることができるという豊かさを楽しんでいることなど、学生たちはよく理解している。ただし、同じ学科・学年で、同じように授業を履修したりアルバイトをしたりしている学生たちの間でも、忙しさやゆとりについての満足度は異なっていることが興味深い点である。大学から家までの距離や自分自身で得なければならない金額等がひとりひとりによって異なるということも大きいだろう。生活の中には、自分自身で管理できないものと管理できるものがある。前者は、家族から得られる経済条件や大学から出される課題など。後者は、お金の使い方、時間の使い方、食事や余暇といった自分の行動の内容など。特に後者について、どの程度“生活者”としてコントロールしているかにより、豊かさや満足度は異なるようである。自分の生活を今一度見直し、整理して生活を組み立てるとすることも大切であろう。

(3) これからの生活経営教育

自らの生活を豊かなものとして作り上げると同時に、社会を構成する一個人として、社会全体の生活を豊かなものにする事を考えられるとよい。

図表9に示す通り、持続可能性を担保して、生活の価値を実現する道筋には、3段階あるという（工藤、2010）。個人の持つ価値を守り、生活を営むことはもちろんのことであるが、さまざまな価値観を持つのは自分だけではない。身近なところでは家族や友人、そして地域の人々、自分とは接点のない多くの人々も、それぞれの価値観を守り、生活を営んでいる。自分の生活の質を向上させながら営むことが重要なのももちろんいうまでもない。さらに、個別の利害を超えて将来世代をも含んだ世代間の価値の調整を行い、生命や自然を守る生活経営を営むことを考えなければならないだろう。そのためには、生活の困難性の解消はもちろんのこと、生活者は主体性を獲得しなければならない。また、これまでの社会体制や生活枠組みだけでなく、新たな方向性が認識され、質を追求するようになるだろう。

このように自分の短期的な生活の向上のみならず、自分の長期的な生活の向上、そしてその生活の向上が自分個人だけのものではなく、社会全体に広まっていくように考えられると、「皆の生活の向上」に向けて前進できるようになるだろう。

<p><第一段階> 生活の困難性の解消</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活価値実現のために障害となるものを除き、生活困難を解消するための支援
<p><第二段階> 主体性の獲得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・守られる存在から主体的な存在へ ・自己の存在感の確認 ・自立と共生
<p><第三段階> 主体性の質への注目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性の根底にある共通のものへの注目 ・全ての要素がそこに集まるような独自の状況をつくる ・中間的領域の形成 ・個別価値と社会的価値の融合 ・新しいシナジー関係の創造

図表9 持続可能な生活の価値実現の3段階

工藤、2010(日本家政学会生活経営学部会編(2010)『暮らしをつくりかえる生活経営力』P13)より抜粋

参考文献

- ・折笠和文（2016）「生活経営学の視座 - 男女共同参画としての学び-」、『名古屋学芸大学 教養・学際編・研究紀要』第12号、1-18
- ・児美川孝一郎（2013）「若者の消費行動に見る日本社会の未来形」、『AD STUDIES』Vol.43、10-15
- ・工藤由貴子（2010）「生活経営 - 新しい価値・規範の創造へ-」、日本家政学会生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店
- ・樋口耕一（2004）「テキスト型データの計量分析 - 2つのアプローチの峻別と統合」、『理論と方法』Vol.19、No. 1、101-115